

◎彙報

第三〇回 原爆文学研究会

- 日時 二〇一〇年三月二一日(土) 一四時より
- 会場 九州大学西新プラザ中会議室
- 研究発表

占領下における広島女学院の原爆の語り

原爆の記憶と朝鮮戦争

——一九五〇年広島における反戦平和詩のダイアグラム

四條 知恵

中根 隆行

二〇一〇年度日本社会文学会秋季大会・第三二回原爆文学研究会

- 日時 二〇一〇年一〇月二日(土)・三日(日)
- 会場 広島大学東広島キャンパス学芸会館二階レセプションホール
- 大会テーマ 原爆体験と表象／文学

——過去からの呼びかけ、未来への語りなおし——

- 研究発表(二〇月二日)

女性と沈黙——林京子を中心に

姜 東星

コメント 野坂 昭雄

小説カルポルタージュカ——核時代の表象と大江健三郎——

山本 昭宏

コメント 島村 輝

核時代における人間の崩壊と歴史の再生——堀田善衛『審判』試論

矢崎 彰

コメント 高野 吾朗

主体のゆらぎ——大田洋子「山上」を中心に

中野 和典

コメント 山口 直孝

- 講演(二〇月二日)

肯定形としての〈原爆〉——占領期のいくつかの言説——

河西 英通

第三二回 原爆文学研究会

- 日時 二〇一〇年七月三一日(土) 一四時より
- 会場 九州大学西新プラザ中会議室
- 研究発表

発掘された記憶

——一九五二年『原爆の図』北海道巡回展

岡村 幸宣

長崎の「原爆の図」展

——一九八〇年代における長崎の反核・平和運動——

服部 康喜

○シンポジウム「原爆表象／文学と政治的リアリズム」(二〇月三日)
・基調報告

誰が「広島」を詠みうるか？

松澤 俊二

見なかつた者が描く絵画——非目撃者による原爆の視覚的表象

加治屋 健司

「知的概観的な時代」の「表現行為」について

——三島由紀夫を視座として「加害」と「被害」を考える——

柳瀬 善治

コメント 岩崎 稔

加納 実紀代

司会 深津 謙一郎

水川 敬章

※発表者・報告者・講演者・コメンテーター・司会(登壇順)

姜東星(城西国際大学) 野坂昭雄(大分県立芸術文化短期大学)

山本昭宏(京都大学大学院) 島村輝(フエリス女学院大学)

矢崎彰(聖路加看護大学) 高野吾朗(佐賀大学)

中野和典(佐世保工業高等専門学校) 山口直孝(二松学舎大学)

河西英通(広島大学) 松澤俊二(桃山学院大学)

加治屋健司(広島市立大学) 柳瀬善治(静宜大学)

岩崎稔(東京外国語大学) 加納実紀代(敬和学園大学)

深津謙一郎(共立女子大学) 水川敬章(日本学術振興会特別研究員)

『原爆文学研究』投稿規定

- 一、原爆文学研究会の機関誌として会員からの意欲的な投稿を歓迎します。なお、会員以外の原稿掲載については研究会事務局で判断します。
- 一、投稿に際しては、住所・電話番号を明記の上お送り下さい。原稿は返却いたしませんので、お手元に控えをお残し下さい。
- 一、パソコン等を使用の場合はプリントアウト原稿にデータファイルを添付の上お送り下さい。
- 一、原稿は、新字のあるものはなるべく新字を用い、注の形式等は既刊のものに準拠してください。
- 一、投稿者は各自の原稿一頁(機関誌の書式)につき一〇〇〇円を発行経費として負担することをご了承下さい。